

# 第54回 熊本県小学校家庭科教育研究大会 熊本市大会

## 大会主題

「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」  
～課題設定と振り返りの工夫を通して～

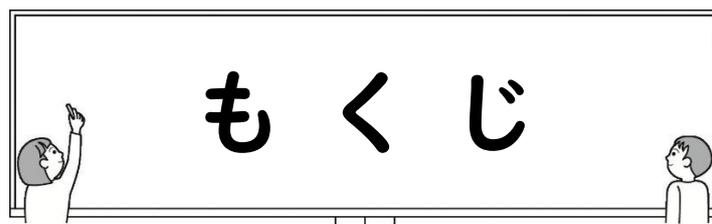


期日 令和5年11月22日(水)

会場 熊本市立川上小学校

主催 熊本県小学校家庭科教育研究会  
熊本市小学校家庭科教育研究会

後援 熊本県教育委員会  
熊本市教育委員会  
日本教育公務員弘済会熊本支部



1 県会長あいさつ	熊本市立川上小学校 校長 古家慎也	…… P1
2 実行委員長あいさつ	熊本市立吉松小学校 校長 村上利美	…… P2
3 大会要項	……	P3~4
4 研究の全体	……	P5~28
I 主題設定の理由	……	P5
II 研究主題について	……	P7
III 研究の仮説	……	P7
IV 研究の視点	……	P7~13
V 研究の構想図	……	P13
VI 指導案	……	P14~24
6年 食生活		
6年 課題と実践		
5年 衣生活		
5年 消費・環境		
VII 考察	……	P25~28
5 運営組織一覧	……	P29
6 あとがき、研究同人	……	P30
7 会場図	……	P31

## ごあいさつ

熊本県小学校家庭科教育研究会

会長 古家 慎也

熊本市において、令和元年度に開催した、第56回全国小学校家庭科教育研究会全国大会から早4年が経ちました。その後の県大会は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、令和2年度は中止、令和3年度の阿蘇大会及び令和4年度の八代大会は紙面開催となりました。県大会を参集のもとに開催するのは、実に4年ぶりになります。

思い返してみますと、令和元年度の全国大会（熊本大会）は、現行学習指導要領に全面移行する前年度ということで、旧学習指導要領に沿いながらも、次期指導要領が目指す家庭科教育にも対応できる内容となるよう創意工夫を行い、全国から高い評価をいただきました。その成果は、脈々と熊本県内さらには全国各地の実践に息づいているものと思っております。

ただ、コロナ禍も相まって、県内の研究会事情は大変厳しい現状にあります。そこで、今後、持続可能な県大会の開催となるよう、いくつかの改革を行うことにしました。まず、これまで県内12支部を持ち回りで開催していたものを、6ブロックに再編し、ブロック開催とすることにしました。さらに、3～4年に一度は熊本市が担当し、熊本市が担当したあとのブロックは、熊本市の追試を行う方法、つまり、熊本市が行った授業と同じ授業を行い、その成果を検証しながら授業改善を行っていくものとするので、少しでも各支部の負担を軽減していきたいと考えています。その意味において、今回の熊本市大会は、次年度からの3年間のモデルとなる重要な大会ともいえます。

このような状況下において、熊本県小学校家庭科教育研究会家庭科部会では、全国小学校家庭科教育研究大会の大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」を研究テーマに掲げ研究を進めてまいりました。今夏の教育課程研究協議会において、文科省からの説明では、学習指導要領の「よりよい実施」を目指して、家庭科の目標と内容をしっかり確認する、さらには「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する」学習過程を充実させることが示されました。GIGA スクール構想のもと、一人一台端末の活用も加速的に進み、これまでの「教える授業」から、ICTを有効活用した児童主体の「学びとる授業」への転換も求められています。本大会を迎えるにあたっては、コロナ禍の中、制限されたり滞っていたりする学習内容も多く、それを取り戻すことで精一杯だったかもしれませんが、研究の現状と成果を熊本県内の先生方と共有できる大会となることができれば幸いです。

終わりにになりましたが、本大会開催に向けて、ご多用な中、これまで指導をしてくださった、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本大学教育学部ほか多くの関係機関の皆様から心から感謝申し上げます。併せて、本大会に向けて研修を積み、準備を重ねて来られました熊本市小学校家庭科教育研究会及び各学校の先生方に厚くお礼を申し上げ、あいさつといたします。

## ごあいさつ

熊本市大会実行委員長  
熊本市小学校家庭科教育研究会  
会長 村上 利美

令和5年度第54回熊本県小学校家庭科教育研究大会が、熊本市の地で開催できますことに心から喜びを感じているところです。

さて、学習指導要領小学校家庭科の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。」です。子どもたちの実態と照らし合わせながら、家庭生活に関する内容を実践的・体験的な活動を通して、実感を伴って学習をすることが示されています。その中で、将来にわたって直面するさまざまな生活事象から生じる身近な問題を子どもが主体的に捉え、どんなに社会が変化しても自立し共によりよい生活を営むために工夫することができる力を育まなければなりません。そのためには、家庭科の学習をとおして、知的好奇心をもって身の回りの家庭生活の中での気づきから問題を設定し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、粘り強く問題解決に取り組むことは、子どもたちの見方・考え方を豊かで確かなものにしていくとともに、子どもたちが未来を生き抜くための基礎となると考えています。

本大会におきましては、大会主題を「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」とし、授業で共通の課題解決に取り組む中で、子どもが自分の生活と関連づけ主体的に学び、探究します。振り返りではICTを効果的に活用し学んだことを蓄積し、よりよい暮らしの工夫につなげます。変化の激しい社会を生き抜く子どもたちの将来につながるよう取り組みます。

グローバル化、少子高齢化社会の進展、持続可能な社会の構築等の現代的な諸問題を適切に解決できる能力をもった、たくましい子どもの姿となるよう努めてきました。

熊本市大会は、新型コロナウイルス感染拡大といった長いトンネルを抜けて、4年ぶりの対面での開催となりました。久しぶりに対面し協議する中で、それぞれの実践に共感するだけでなく仲間のいる温かさや安心感を味わうことのできる大会にできればと感じております。

最後になりましたが、本大会の開催においてご支援を賜りました熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、日本教育公務員弘済会熊本支部の皆様、指導・助言をいただきました熊本大学大学院教育学研究科 八幡彩子 教授をはじめとする先生方、大会の研究・運営等のご協力いただきました関係の皆様方に、深く感謝の意を申し上げましてごあいさついたします。

## 第54回 熊本県小学校家庭科教育研究大会（熊本市大会）開催要項

### 1 目的

「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」の主題による研究・実践の成果を公開し、熊本県内の小学校家庭科教育の振興と充実・発展を図る。

### 2 主催

熊本県小学校教育研究会家庭科部会  
熊本市小学校家庭科教育研究会

### 3 後援

熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 日本教育公務員弘済会熊本支部

### 4 令和5年度熊本市大会を開催するにあたって

- 授業メインの「スマート県大会」をめざす。
- 対面（3年ぶり）での開催とし、午後半日の日程とする。
- 公開授業を4本設定（2本×2コマ）する。指導案は熊本市の様式（研究部提案）とする。
- 全体会は一堂に会せず、全体会配信会場から授業研究会会場へオンライン配信する。
- 大会紀要及び指導案等は、県研究会ホームページに掲載し紙での配布は行わない。
- 会費は最小限に止め、経費削減を行う。
- 各支部からの展示は行わない。ただし、熊本市は各分科会の必要に応じて展示や掲示を行う。
- 業務を分担し、連携を密にすることにより一部に負担がかからないように協力し合う。

**5 日時 令和5年11月22日（水） 12:50～16:30**

### 6 会場 熊本市立川上小学校

受付 新館と本館の間（テント）  
公開授業及び授業研究会 新館5、6年教室  
全体会 同上（校内オンライン）  
\*校内オンライン：全体会配信会場（被服室）⇔5、6年教室

### 7 日程

12:15～12:50（35分） 受付  
（12:40～12:45 ウェルカムビデオ上映）  
12:50～13:35（45分） 公開授業① 5年2組、6年1組  
13:35～14:30（45分） 公開授業② 5年1組、6年2組  
14:30～15:25（45分） 授業研究会〔4分科会〕  
15:25～16:30（55分） 全体会

\*会場校（川上小）は午前3時間授業後、公開授業クラス以外は給食なしで下校（11:30）。  
公開授業クラスは、弁当持参。

	12:15	12:50	13:35	13:45	14:30	14:40	15:25	15:35	16:30
【日程】	受付 12:40～12:45 ウェルカムビデオ	公開授業① 45分	移動 10分	公開授業② 45分	移動 10分	授業研究会 45分	休憩 10分	全体会 (挨拶、研究発表、講評、次年度案内) 55分	
【会場】	新館昇降口	各教室（5の2） （6の1）		各教室（5の1） （6の2）		授業研究会教室（4教室） *全体会はホスト会場からオンラインで各教室へ配信			

\*受付後、直接公開授業①会場へ移動する。開会行事は行わず、公開授業①開始10分前にウェルカムビデオの上映と放送を入れる。

## 8 参加費 500円（当日、受付で徴収）

## 9 授業者・助言者・講評

	学年・組	領域	題材	授業者	助言者
公開授業①	5年2組	衣生活	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	伊田朱里 教諭 (川上小)	廣瀬文子 指導主事 (市教育センター)
	6年1組	食生活	まかせてね 今日の食事	板倉富美江 教諭 長尾豊美 栄教 (川上小)	増田 仁 准教授 (熊大)
公開授業②	5年1組	消費・環境	持続可能な暮らしへ物やお金の使い方	松島 慧 教諭 (託麻原小)	八幡彩子 教授 (熊大)
	6年2組	課題と実践	生活を変えるチャンス	小菌裕太郎 教諭 (泉ヶ丘小)	中迫由実 准教授 (熊大)
全体会講評					高宮かおり 指導主事 (県教育センター)

## 10 授業研究会および全体会次第

### (1) 授業研究会

※会場責任者、司会者（領域担当者）  
記録、写真記録

- ①開会 (1分) (司会者)
- ②関係者紹介 (1分) (司会者)
- ③授業者自評 (3分) (授業者)
- ④質疑・応答 (9分)
- ⑤研究協議 (15分)
- ⑥指導・講評 (15分) (助言者)
- ⑦閉会 (1分) (司会者)

### (2) 全体会

<全体会配信会場参加・参列者>  
大会関係者：県市長・副会長、県市事務局長、研究部長、広報部長  
記録者、ICT関係者  
来賓：分科会助言者（4人）、全体会講師（1人）

※全体会会場責任者（市事務局長 古江）、司会（市副会長 山口）  
記録（広報部 宮崎、西川）、写真（広報部 西川、古江）

- ①開会 (1分) (県副会長 川中)
- ②県会長挨拶 (3分) (県会長 古家)
- ③実行委員長挨拶 (3分) (市会長 村上)
- ④関係者紹介 (2分) (司会 山口)
- ④研究発表 (15分) (研究部長 中村、牛島)
- ⑤指導・講評 (25分) 県立教育センター 高宮かおり 指導主事
- ⑥次年度開催ブロック挨拶【山鹿・菊池】(5分) (合志南小 校長 土井昭子)
- ⑦閉会 (1分) (県副会長 堀川)
- ※諸連絡 (事務局 古江)

・車の出口、アンケートなど

## 11 その他

運営組織、業務一覧、スケジュール、会場配置図は別途定める。

# 自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成 ～課題設定と振り返りの工夫を通して～

## I 主題設定の理由

### 1 社会的背景

近年、自然災害が日本全国で起こっている。2016年4月の熊本地震では、電気、ガス、水道などライフラインがストップし、日常生活がままならなくなるほどの甚大な被害を受けた。このような状況におかれて、当たり前だった日常、家族や家庭、地域で助け合うことの大切さを実感した。

学習指導要領では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することが、目標として明示されている。その中で、「日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、技能を身に付けること」、「日常生活から問題点を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を養うこと」「家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと」が求められている。

子どもたちは、グローバル化の進展、技術革新、少子高齢化、持続可能な社会の構築、人工知能(AI)の進化など予測困難な社会を生き抜いていかなければならない。こうした状況の下、豊かな生活を築くためには、家族や周りの人々と知恵を出し合い、協力して問題を解決しようとする態度や複雑で困難な問題に対応する能力が重要となる。

これからの持続可能な社会の構築に向け、子どもの生活とつながる課題設定と振り返りを積み重ねることにより、生活をよりよくしようと工夫する子どもの育成を目指したいと考える。

### 2 家庭科学習に関する実態

家庭科学習に関する実態を把握するために、熊本市の小学5年生(322人)、6年生(345人)、熊本市の小学校教員(25人)に意識調査を行った。 ※令和4年7月実施

#### ○子どもの実態

家庭科に関する興味・関心は高く、「生活に役立つ教科だ」と考えている子どもが9割を超えている。

(図1)

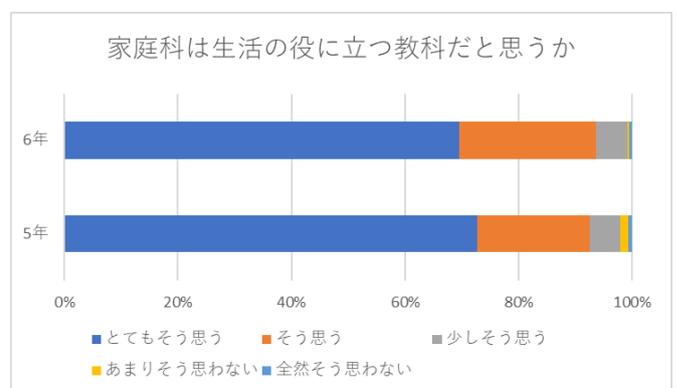


図1 児童の実態1

「家庭科を学んで家庭での生活が変わった」と答えた子どもも6割以上いる。(図2)

その一方で、「生活を変えた方がいい」と思う子どもは3割程度にとどまっている。(図3)

また、近年社会的に求められているSDGsを知っている子どもは6割を超えるが、環境に配慮した生活に取り組んでいるという子どもは半数にも満たない。(図4)(図5)

生活をよりよくなりたいと考えるためには、自分の生活を客観的に見つめる場面の設定や、SDGsと生活を結び付ける手立てが必要である。

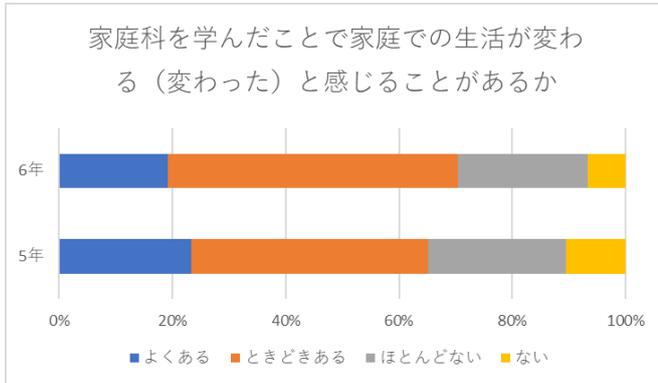


図2 児童の実態2

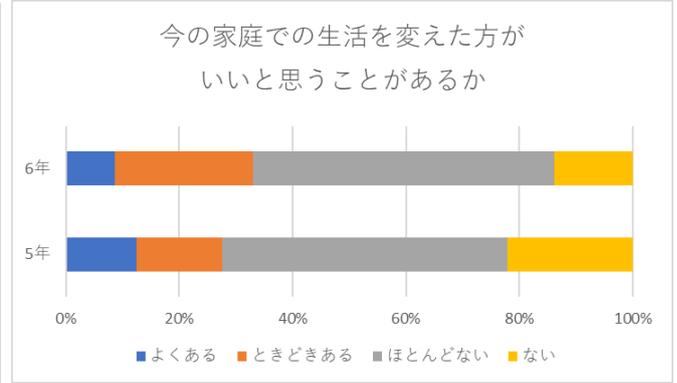


図3 児童の実態3

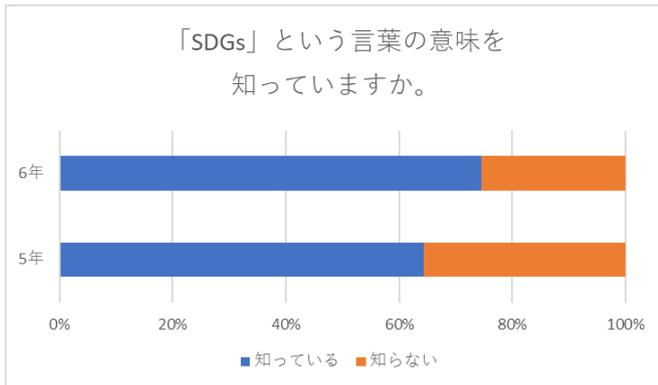


図4 児童の実態4

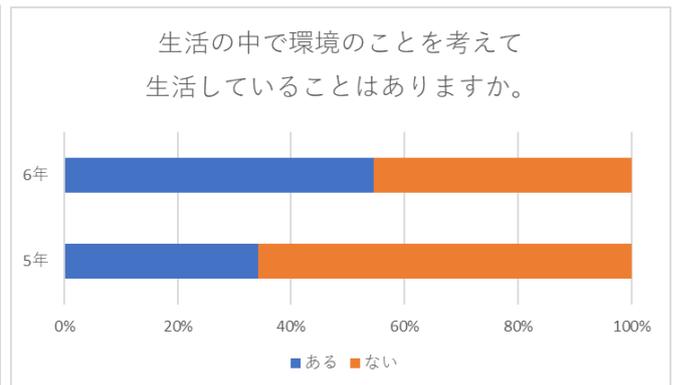


図5 児童の実態5

### ○教員の実態

学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくなろうと工夫する資質・能力」を育成することが求められている。「実践的・体験的な活動を行っているか」という問いに対して、8割以上の教員が取り組んでいると答えている。(図6)

その一方で、「問題解決的な学習を行っているか」という問いには、行っていると答えている教員が4割程度である。(図7)

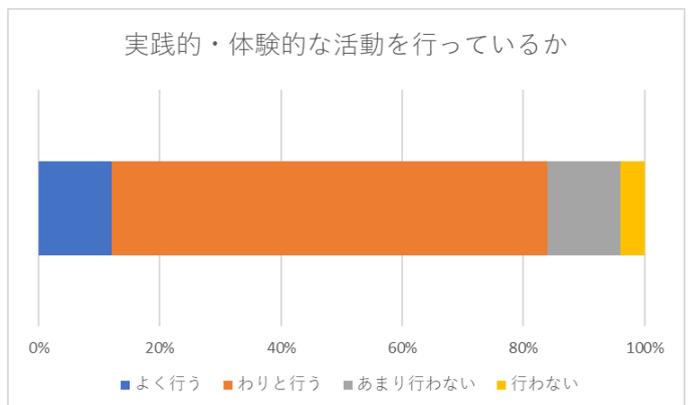


図6 教員の実態1

家庭科に対する困り感にも「子どもたちにどう課題を意識させるか」「課題と実践の展開」「問題解決的

な学習の組み立て方」「子どもがより自分事としてとらえるための手立て」「個に応じた指導」などが挙げられていた。これらの結果から、実践的・体験的な活動にとどまり、問題解決的な学習の進め方に踏み込めていない教員が多いことがうかがえる。生活における問題を見だし、問題解決的な学習を通して、生活をよりよくしていこうとする子どもを育成するため、学びを構築する教師の力量を高めていかなければならない。

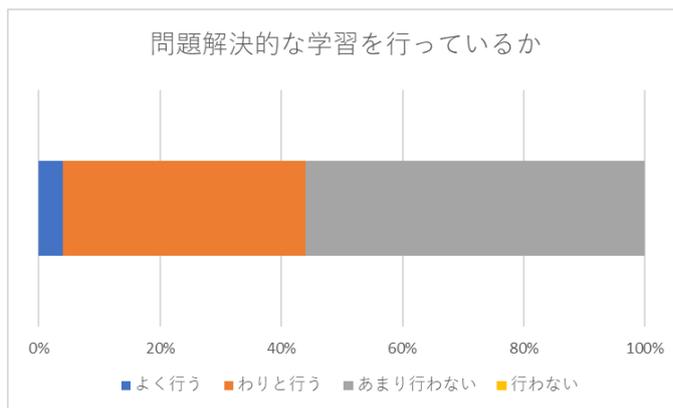


図 7 教員の実態 2

## II 研究主題について

「生活をよりよくしようと工夫する」とは、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて生活を創意工夫することである。日常生活の問題解決に主体的に取り組み、協働して解決することを通して、家庭の仕事の意義や大切さを理解する。さらに、理解したことをもとに目的や状況に応じて、健康・快適・安全で豊かな衣食住の生活などを実現する力や実践的態度を育てることを意図している。

## III 研究の仮説

子どもの生活に近い設定家族の提示と課題設定、それを解決する学習、自分の成長や生活の変容を実感できる振り返りをすれば、自らの生活の問題に気づき、生活をよりよくしようと工夫する子どもが育つであろう。

## IV 研究の視点

### 1 視点1 課題設定の工夫

子どもや教員の実態から、「問題を見だして課題を設定すること」が現在の大きな課題であると考えられる。しかし、子どもを取り巻く家庭環境はさまざまであり、配慮を要する。また、子どもはそれぞれの生活が日常のことであり、その生活に疑問を持つことは難しい。そんな状況を改善すべく、設定家族(太郎さん)を登場させた。(図8)



図 8 設定家族

それぞれの題材で学習する内容を踏まえ、その内容ができていないために困っている太郎さんのスライドを題材の導入で提示した。このスライドは、学習支援アプリ「ロイロノート」の資料箱に入れ、熊本市の教員が共有できいつでも活用できるようにした。スライドを使用し、太郎さんの生活上の問題をクラスで共有する中で、自然と自分の生活と比べ、共感しながら

問題を見いだして、自分の学習の課題を設定する。また、設定した課題は学習のゴールと共に振り返りシートに明記し、題材の学習中、常に意識できるようにする。

6年生の「生活を変えるチャンス！」(課題と実践)では、設定家族の1日のスライドを題材の導入として用いる。既習の学習から、家族の衣食住における家事分担の偏り等を取り上げ、太郎さんの生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、どのようなことに取り組みばよいかを考える。

6年生の「まかせてね 今日の食事」では、太郎さんが考えた献立をもとに、栄養バランスのよい献立を立てるポイントを理解して献立をつくりなおす活動を通して、解決の見通しを持つことができる。(図9)

その後、自分の家族の問題を見いだし、解決につなげていく。



図9 太郎さんの考えた献立

## 2 視点2 指導の工夫

家庭科では、自分自身の生活を見つめ、基礎的・基本的な知識・技能をそれぞれの家庭生活の状況に応じて活用しながら、問題解決に主体的に取り組む子どもたちを育てたい。そのためには、教師が主導的に教える授業から、子どもが自ら問題解決の方法を友達と協働しながら、探究していく授業へと転換を図る必要があると考えた。

また、問題の解決のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する必要がある。その上で習得した知識・技能をもとに製作や調理の計画を考え、実践し評価・改善する活動を通して、家庭での実践に向かう力を育てていく。さらに、一連の学習活動において、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて問題を見いだし、課題を設定し、解決していく学習が、生活をよりよく工夫する力の育成につながっていくと考える。

### (1) 思考力・判断力・表現力を育むための状況設定の工夫

5年生の「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」では、学習活動の中に、お店での買い物だけでなく、電話注文やインターネットショッピングなど、実生活に近い状況設定を取り込むことで、よりよい消費者になるための思考力・判断力が身につくと考える。そこで、何をかうのか・どのような方法でかうのか・どのようにして支払うのか、実際の買い物場面を想起できるようにする。

6年生の「まかせてね 今日の食事」では、太郎さん家族を設定し、家族の健康につながる副菜を考える活動を取り入れ



図10 栄養バランスチェック表

る。その際、タブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)を使って考えていく。(図10)

この副菜は給食に出てくるなじみのあるメニューであり、献立の材料や作り方を確認しながら、情報を比べることで、よりよい献立を考えることにつながる。

## (2) 学びを深めるための対話的な活動

「なぜ、この部分を返し縫いするのか」「なぜ、じゃがいもは水からゆでるのか」などの理由について、考えたり話し合ったりすることで、その技能の特徴について気付かせる。気付くことで、他の実践にも生かすことができるようになると思う。

6年生の「まかせてね 今日の食事」では、設定家族の献立を考えさせることで、自分の家族の問題と重ねながら「家族が健康になる献立だから、栄養バランスが取れた献立にしなければ」と主食(ごはん)、主菜(唐揚げ)、副菜、汁物に何を入れるとよいかをレシピ集やタブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)をもとに献立をペアで考えるようにする。(図11)



図 11 献立をペアで考える

料理に含まれる材料の栄養素を黄赤緑のスタンプで表現させ、「緑を増やすには、どのようにしたらよいか。」考えていく。「みそ汁の実に野菜を使う。」「副菜を野菜がたくさんとれる料理にする。」など栄養バランスを整えるための工夫について気付かせる。

## (3) 教材・教具の工夫

6年生の「まかせてね 今日の食事」では、太郎さん家族の副菜を考える場面で、材料や作り方と連携したタブレットでの栄養バランスチェック表(熊本市教育センター作成)を活用している。容易に試行錯誤ができ、写真や作り方などを見ることができ、子どもたちにとってわかりやすい。

5年生の「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」では、おはじきを使った買い物ゲームをすることで、お金が有限であること、用途がたくさんあることに気付くことができ、自分のお金の使い方を考えることにつながる。(図12)



図 12 おはじきを使った買い物ゲーム

5年生の「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」では、ランチョンマットの製作手順を考える場面で、段



図 13 間違いの段階見本も使って製作手順を考える

階見本をもとに考える場面を設定する。(図13)

間違いの段階見本(裏表が逆の見本など)も準備することで、布端の始末の意味や手順の必要性を意識しながら手順を考えることができるようにする。また、段階見本は、製作時にも使用し、確認しながら進めていくことができるようにする。

#### (4) SDGsの意識づけ

近年、SDGsという言葉が世の中にあふれるようになってきた。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。これからの社会を作っていく子どもたちにとって重要な考え方であり、家庭科と関連する項目も多い。しかし、教員が意識して取り扱うかによって子どもたちの学びも変わってくると考えられる。

5年生の「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」では、商品を選ぶ際の視点に環境を取り上げる。資源に配慮して作られたものについて知ること、食品ロスを減らすために賞味期限・消費期限を見て選ぶこと、包装について考えることなどで持続可能な社会につながることを知る。そして、子ども達は次からの商品選択の考え方として使えるようになる。

6年生の「生活を変えるチャンス！」(課題と実践)では、それぞれの課題発見時の視点として、家庭科の「生活の営みに係る見方・考え方」を与えることで、「持続可能な社会」につながるかも考えながら計画につなげていくようにする。(図14)

5年生の「ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活」では、「ずっと使えるエプロンを作りたい」という子どもの願いから、裾のぬいしろを大きくとったり、縫い方を工夫したりすることで、永く使い続けられることをおさえる。そのようなことから、エプロンを大切に使うことで、今後も環境への意識を持ち続けていくと考える。(図15)

家庭科の窓から生活を見つめよう	
<b>協力</b>	家族や地域の人々と協力して生活しているかな？
<b>健康・快適・安全</b>	健康や快適、安全に気をつけているかな？
<b>生活文化</b>	日本の生活文化を大切にしているかな？
<b>持続可能な社会</b>	環境に配慮し、豊かな未来をつくれそうかな？

図14 「生活の営みに係る見方・考え方」



図15 裾のぬいしろを大きくとったエプロン

### 3 視点3 振り返りの工夫

学習支援アプリ(メタモジ)を活用し、題材を通した1枚の振り返りシートに蓄積していく。振り返りシートでは、題材の導入時に「知りたいことやできるようになりたいこと」から学習のゴールを設定して、題材の見通しを持つことができるようにする。また、毎時間の振り返りでは、「これまで」「今日の学び」の視点で振り返りを書く欄を設け、題材の学習と生活をつなげられるようにする。教師からのコメント欄はチェック方式にして、子どもたちへの返しもスムーズに行えるように工夫する。

次時の初めに振り返りを紹介することで、学習内容の再確認や学習意欲を高め、活動内容の確認なども行えるようにする。

**思いを形にして生活を豊かに**

6年 組 番 名前

学習に入る前の自分

困っていること  
作り方がわからない、材料がわからない。

↓

知りたいこと、できるようにになりたいこと  
作り方、材料、道具

↓

学習のゴール  
ナップザックを完成させる。

題材のふりかえり  
ナップザックを作る時の布の選び方がわかりました。布を選ぶ時には、そのナップザックに入れるものを考えて選ぶと良いことを知りました。重いものを入れたり、丈夫に仕上げたい時は、キルティングという布が良いことがわかりました。どんな布が良いかとかを初めて知ったので、家で作る機会があれば、参考にして選ぼうと思いました。その布のサイズも考えられるようになりました。作りたい大きさの2倍と縫い代を合わせた大きさを買えば作れることも覚えめました。今回の単元でナップザックの作り方もわかりました。僕は、最初に裏返しで縫うことを知って、びくびくしましたが、その作る工程で、重要なことがいくつかありました。あき止まりを先に縫うことと、縦に折って縫うところは、最後に縫うことが大事でした。先に上を縫うと、糸が通せなくなってしまうから、そこも気をつけて覚えたいと思いました。

① 6月 4日	めあて 学習のゴールを決めよう。	今日の学びは 5年生まででは、平面の布でできたものの学習をしていて、6年生は、袋などについて学習していることがわかって楽しみだと思いました。	自己評価 A	振り返りたいこと この単元で学んだことを具体的に書こう
② 6月 22日	めあて 布の選び方を考えよう。	今日は、いろいろな布を触って見て、選んでおもしろいものも、ものを入れてくさったから、重さや、縫いやすさなどもめいと思いました。少し厚みがあり、縫いやすさもありました。ものなどがあるいろいろな布があることがわかりました。	自己評価 A	この単元で学んだことを具体的に書こう
③ 6月 28日	めあて ナップザックに合う布と大きさを考えよう。	ナップザックの布の大きさは、作りたい大きさの2倍と縫い代の幅を足せばいいことがわかりました。ナップザックの布の幅のめい方に、ロックミシンという糸が通るのを防ぐための工夫もあるとわかりました。	自己評価 A	この単元で学んだことを具体的に書こう
④ 6月	めあて ナップザックの作り方を考えよう。印つけをしよう。	ナップザックを作る手順で、最初に、縦に折って縫うと、あき止まりを先に縫うと、縦に折って縫うところは、最後に縫うことが大事です。先に上を縫うと、糸が通せなくなってしまうから、そこも気をつけて覚えたいと思いました。	自己評価 A	この単元で学んだことを具体的に書こう
⑤ 7月 12日	めあて ナップザックの仕上げをして、サイドをミシンでぬいよう。	上糸をミシン針に通す時に、後ろから手前へ向かった通してしまっていて、ぬえなかったから、しっかりとそこを縫えたいと思いました。	自己評価 A	この単元で学んだことを具体的に書こう
⑥ 7月 19日	めあて ナップザックのあき止まりをぬいよう。	あき止まりを縫う時に、下の部分や、横の部分から、縫って縫われてしまっていて、縦に縫われないようにすることが難しくなりました。けれど、縫わない部分を、ミシンの針に刺さるまで、縫わなくて、丈夫にできるといいと思いました。	自己評価 A	この単元で学んだことを具体的に書こう

図 16 振り返りシート

#### 4 ICT の活用について

視点1、視点2、視点3の活動をより効果的に進めるために、ICT を積極的に活用する。下表は、学習過程の中での活用場面や、活用方法、活用の効果を一覧に表したものである。本研究では、各学習過程と視点1、視点2、視点3との関連を明記し、活用を進めた。

表1 ICT 活用一覧表

ICT 活用 学習過程	〈活用場面〉 ●方法 ○活用の効果	[視点] ○活用の効果	・学習形態 (活用機能)
1. 生活の問題発見・課題設定 ・生活を見つめる。 ・問題を見だし、課題を設定する。	〈課題・問いを提示する場面〉 [視点1, 視点3] ●比較可能な画像を用いる。 ●問題の隠されたプレゼンテーションを用いる。 ●アンケート結果を用いる。 ○具体的な学習のイメージをもつことができる。 ○興味・関心や意欲を高めることができる。 ○学習のゴールのイメージが容易。 ○自分たちの課題を自覚しやすい。		・一斉 (カメラ機能、ファイル共有機能、1機能)

<p><b>2. 解決方法の検討と計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能を習得し、解決方法を検討する。</li> <li>・解決の見通しをもち、計画を立てる。</li> </ul>	<p>〈思考・判断・表現させたい内容を提示したり、自分の考えを表現したりする場面〉</p> <p>[視点2]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●段階見本の画像をデジタルカードにし、画面上で動かす。</li> <li>●1食分の献立作成プログラム(熊本市教育センター作成)を使って、栄養を確かめる。</li> <li>●比較可能な画像を用いたワークシートに考えを記入する。</li> </ul> <p>○各自の意見を可視化し、共有することで、対話的な深い学びを促す。</p> <p>○主体的な学びにつながる。</p> <p>○修正が容易なので臆せず取り組める。</p> <p>○計画の見直しに生かせる。</p> <p>○具体的なイメージを持てるため、対話が活性化する。</p> <p>○全体共有が容易。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別</li> <li>・協働</li> </ul> <p>(カメラ機能、コメント機能、ファイル共有機能)</p>
<p><b>3. 課題解決に向けた実践活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能を活用し、実践する。</li> <li>・知識及び技能を活用し、実習や調査、交流活動を行う。</li> </ul>	<p>〈対話を通した学びの変容に向けたしかけの場面〉</p> <p>[視点2]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●デジタル付箋を互いに交換する。</li> <li>●班で1枚のシートを編集する。</li> </ul> <p>○リアルタイムで共有できるため、対話が活性化し、よりよい方法を探ることができる。</p> <p>○リアルタイムで子どもの活動状況が把握でき、必要に応じた支援が可能。</p> <p>○発表の際の全体共有が容易。</p> <li>●電子黒板に各自の意見を映す。</li> <p>○リアルタイムで子どもの活動状況が把握でき、必要に応じた支援が可能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別</li> <li>・協働</li> </ul> <p>(カメラ機能、コメント機能、ファイル共有機能)</p>
<p><b>4. 実践活動の評価・改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践した結果を評価する。</li> <li>・結果を発表し、改善策を検討する。</li> </ul>	<p>〈評価・振り返りの場面〉</p> <p>[視点3]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1枚にまとめた題材振り返りデジタルシートを一斉送信する。</li> <li>●画像を用いた実践報告書作り。</li> <li>●画像を用いた成果物の作成。</li> </ul> <p>○題材を通して自己の成長や思考の変容が分かる。</p> <p>○共有が容易で、多様な考えに触れることができる。</p> <p>○コメントを送り合うことで自己評価、改善に生かすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別</li> <li>・協働</li> </ul> <p>(コメント機能、ファイル共有機能)</p>

〈学習過程全体において〉

(児童・生徒)

- 蓄積していくことが容易。
- 加筆修正など編集が容易なので、失敗を恐れず取り組める。

(教師)

- プリント配付を回収の時短になる。
- 教師の評価がしやすい。
- 実物等の準備が減る。

【筒井恭子編著「1人1台端末を活用した授業づくり（小学校家庭科）」参照】

## V 研究の構想図

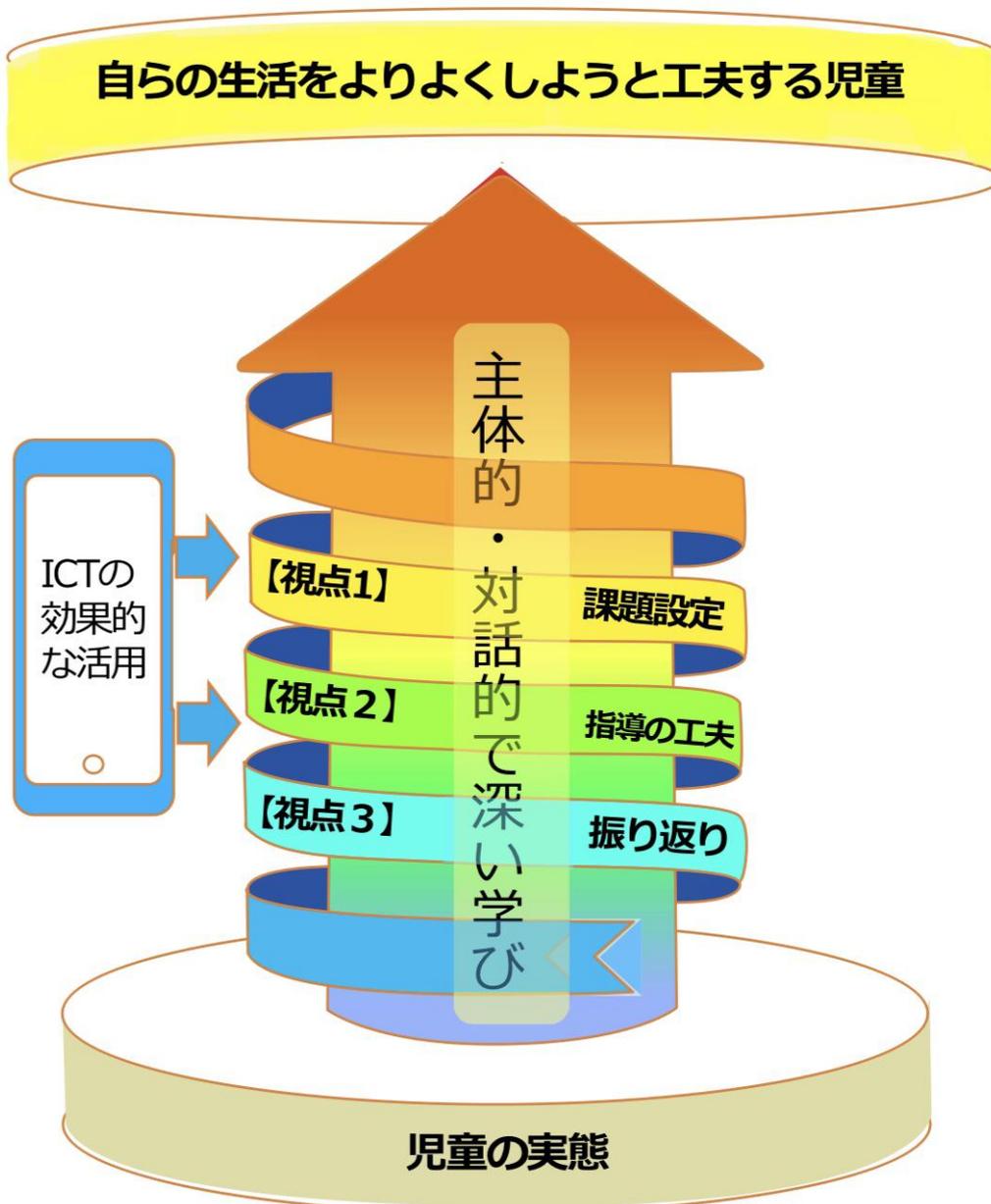


図 17 研究の構想図

## VI 指導案



### 【公開授業①】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
衣生活	5年2組	伊田 朱里 教諭 (川上小学校)	ミシンにトライ! 手作りで 楽しい生活	P20～22
食生活	6年1組	板倉富美江 教諭 長尾 豊美 栄養教諭 (川上小学校)	まかせてね 今日の 食事	P15～17

### 【公開授業②】

領域	授業クラス	授業者	題材	掲載ページ
消費・環境	5年1組	松島 慧 教諭 (託麻原小学校)	持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	P23～24
課題と実践	6年2組	小菌裕太郎 教諭 (泉ヶ丘小学校)	生活を変えるチャンス	P18～19

\* 題材全体の授業の実際については、県大会(熊本市大会)のまとめ【報告書】として、年度末に掲載する予定。

# 第6学年1組 家庭科 学習指導案

指導者 T1教諭 板倉 富美江 T2栄養教諭 長尾 豊美

## 1 題材の構想 まかせてね 今日の食事（東京書籍） B(1)イ(2)イ(3)アイ C(2)アイ

題材終了時の児童の姿	食事の大切さや栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解するとともに、環境への配慮、自分や家族の健康を考えた食事づくりをするための調理計画や調理の仕方を工夫し、自分の食生活をよりよくしようとしている。		
題材の目標	<b>〔知識及び技能〕</b> ・献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。	<b>〔思考力、判断力、表現力等〕</b> ・1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定する。 ・様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	<b>「学びに向かう力、人間性等」</b> ・家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。 ・自分の生活を振り返って改善したり、工夫したりして実践しようとしている。
目標に向かうための手立て	<b>○研究の視点</b> <b>【視点1 課題設定の工夫】</b> 児童の実態調査に加え保護者へのアンケート結果や設定家族の食生活を提示することで自分の食生活における問題に気づき、なりたい自分の姿を具体的にイメージできるようにする。 <b>【視点2 指導の工夫】</b> 自分や家族の健康を考えた献立づくりにおいては、設定家族の献立について、栄養バランスチェック表（熊本市教育センター作成）を活用して栄養のバランスを考えた献立に改善する活動を行う。また、調理実習や実践報告会においては、調理の過程や作った献立を画像や動画で記録したものを発表させる。これらを通して、自分の考えを表現したり他者の考えを学んだりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 <b>【視点3 振り返りの工夫】</b> 生活の中から課題を見出し、学んだことを生活に生かすという教科の特質から「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行う。また、自分の生活の変化や成長を実感できるようにするためにロイロノートやメタモジを活用し、題材を通して振り返りを蓄積していく。さらに調理の様子や映像を残しておき、技能の習得状況を把握するとともに、改善点が分かるようにする。		
児童の実態	昨年度は、学校での調理実習はできなかったが、今年度は1学期に、いためる調理を行った。 家庭での調理体験は、「ほとんどしたことがない」が6割であった。 家庭科の調理でできるようになったと感じていることは「いためる料理を作る」が9割、「包丁で食材を切る」が6割、「みそ汁を作る」が2割であった。家庭での調理への参加が少ないのが現状である。	「食習慣について自分の問題は何か」（複数回答）の問いに、「栄養バランス」を挙げている児童が6割、「噛む回数が少ない」と「好き嫌い」がそれぞれ5割であった。児童は栄養のバランスに関して意識しているものの、個々の課題を解決するまでの実践には結びついていない。 保護者向けのアンケートでは、家族の食習慣の問題は、「栄養バランス」と「好き嫌い」について、ともに5割の保護者が挙げていた。	1学期の調理の家庭実践の振り返りでは、「喜んでもらえてうれしい」と感じている児童がほとんどだった。「毎日、いろいろ考えて調理をしている親はすごい」「これから料理を手伝うようにしたい」と書いている児童もいた。 給食時の様子からは、少食・偏食の児童が多く、五大栄養素について学んではいるものの実際の食生活とのつながりは低いと見てとれる。

単元（題材）の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 献立を構成する要素が分かり1食分の献立作成の方法について理解している。 ② 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ③ 材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。	① 1食分の献立の栄養バランスや環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。  ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	① 家族の一員として生活をよりよくするために、栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について、主体的に取り組む。  ② 自分の生活を振り返って改善したり工夫したりして、実践しようとしている。

指導と評価の計画（10時間取り扱い ●本時3/10）				
課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
家族の健康のために1食分の食事を作ろう	1	1	○アンケート結果や設定家族の献立をもとに自分の食生活を振り返り、題材を通してためあてを設定する。	【思】①振り返りシート 【主】①振り返りシート
	2	2	○主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて献立を立てることや、献立を立てる順番を理解する。	【知】①学習シート 【主】①振り返りシート
		3	●一食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解する。	【知】①学習シート ①振り返りシート
		4 5	○ゆでる、いためる調理を組み合わせた「野菜のベーコン巻き」の調理計画を立てる。	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		6	○調理する。（一人調理）	【知】③行動観察・学習シート 【主】①行動観察
	3	7 8	○家族のために作る1食分の献立を考え、調理計画を立てる。（副菜・汁物）	【知】②学習シート 【思】①学習シート
		課外	家庭実践	
	4	9 10	○家庭実践報告書を作成し、自分の家庭実践を振り返る。実践報告会を通して、これからの食生活に生かす計画を立てる。	【思】①報告書・振り返り 【思】②振り返りシート 【主】②振り返りシート

栄養バランスチェック表（熊本市教育センター作成）



献立の内容を考える



栄養のバランスをチェックする

## 2 本時の授業計画

### (1) 本時の目標

1 食分の献立を考える活動を通して、栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解することができる。

### (2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 (T1 T2) ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 太郎さんの献立を確認し、本時のめあてを立てる。	○太郎さんが考えた献立を見てみましょう。 ・主食、主菜、副菜、みそ汁があるね。 ・黄、赤、緑が全部入っているけど、栄養のバランスはいいのかな。	T1 T2 太郎さんの献立を考えることで、献立の構成要素や献立を考えるときに栄養のバランスを考える大切さに気付かせる。	電子黒板
			栄養のバランスを考えた献立を立てよう。		
展開	15	2 太郎さんの献立について考える。  (1) 個人で考える。  (2) 友達と考える。	○太郎さんの献立をよりよくするにはどうしたらよいか考えてみましょう。 ・栄養のバランスをよくするにはどうすればいいのかな。 ・緑の食品が足りないようだからみそ汁の実を□□にしてみよう。  ○友達と意見交流しましょう。 ・副菜を別の料理に変更してみよう。 ・みそ汁の実を変えたんだね。	T1 タブレット上で可視化した中で、黄・赤・緑のグループを確認する。  T1 T2 選んだ副菜やみそ汁の実について選んだ理由を考えさせるようにする。	電子黒板  副菜カード  タブレット (ロイロノート) 栄養バランスチェック表 (熊本市教育センター作成)  発表メモ (ノート)
	20	3 栄養バランスを考えた献立の立て方のポイントをまとめる。  (1) 全体で意見交流をする。  (2) 栄養バランスについてまとめる。	○友達と意見交流した献立について、発表しましょう。 ・緑の食べ物を増やすために生野菜サラダに副菜を変えました。 ・みそ汁の実を旬で緑の□□にしました。  ○栄養のバランスを考えた献立作りのポイントをまとめましょう。 ・副菜や汁物の実で野菜をたくさんとることができる。 ・主食・主菜を決めて、副菜・汁物で栄養のバランスを整える。  ○献立を立てる際の栄養のバランスについて栄養教諭の長尾先生にお話を聞いてみましょう。  ○栄養のバランスを考えた献立を立てるには、どうすればよいかまとめ、太郎さんにアドバイスしましょう。	T1 T2 発表した献立に対して述べた理由を認めながら補足し、子ども達の理解が深まるようにする。  T1 複数の食品を組み合わせることで、栄養のバランスを整えることができることに気づかせる。  T2 黄：赤：緑の割合が、3：1：2を目安にするとよいことを知らせ、栄養のバランスへの理解を深めさせる。 ◎【知】①栄養のバランスを考えた献立の立て方を理解しているか。	黄・赤・緑のバランス図  太郎さんへのアドバイス
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○栄養のバランスを考えた食事づくりができる自分に近づくことができましたか。 ・栄養のバランスのとり方が分かった。 ・栄養のバランスのよい献立を立てるには、副菜や汁物の実で調節できることが分かった。	T1 本時の学びを振り返ることにより次時の学習に生かせるようにする。	タブレット (メタモジ)

## 第6学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 小菌 裕太郎

### 1 題材の構想 生活を変えるチャンス！ (東京書籍) A(4)ア

の児童の姿	自分や家族・地域の生活に関心を持ち、これまでの家庭科での学習を生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生活の営みに係る見方・考え方やSDGsの項目などを考慮しながら、よりよい生活を考えて、計画を立てて実践しようとしている。	
	【思考力、判断力、表現力等】	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の仕事または家族・地域との関わりについて日常生活の中から課題を設定し、工夫して計画を立てる。</li> <li>課題解決に向けて実践し、結果を評価、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組む。</li> <li>家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> </ul>
目標に向かうための手立て	<p>○ 研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 設定家族の1日から課題を見付け、自分の家庭の課題と結び付けることや、前回の実践からの気づきや改善点をもとにパワーアップポイントを考えることで、新たな課題もしくは同じ課題に対しての新たな取組に活かすというねらいを明確にする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 パワーアップポイントをもとに、自分の家庭や地域の人々との関わりの中での新たな課題へとつながりたい。その時に、前回のレポートやこれまで学習してきた題材の振り返りシートから、気づきや改善点を共有し、アドバイスをし合うことで、持続可能で、よりよい生活の改善のヒントとなるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 今までの学習や、授業の終末を振り返ることで、実践に向けた意欲の向上と課題解決に向けた取組をよりよいものにする。課題と改善策はメタモジのシートにまとめ、モニタリング機能を活用しながら展開していくようにする。</p>	
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が家庭科は将来役に立つと考えている一方で、「今の自分に役立っているか」という問いに対して役立っていると答えた児童は半数に留まった。</li> <li>○自分の生活を変えたいと考えている児童は全体の6割だった。今の生活に課題を感じている児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○約6割の児童が家庭科は好きと答えている。苦手と感じている児童はクラスの半数いる。しかし、クラスの全員、家庭科は役に立つと回答している。</li> <li>○家庭科で学習したことを家庭で実践している児童は約7割である。</li> <li>○SDGsを意識して生活している児童は全体の5割であった。</li> </ul>

題材の評価基準	
思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①家庭の仕事または家族・地域との関わりについて日常生活の中から問題を見だし、課題を設定している。 ②家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて、よりよい方法を考え、計画を工夫している。 ③家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 ④家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて実践した結果を評価・改善している。	①家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ②家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事または家族・地域との関わりに関する課題を見つけ、次の実践に取り組もうとしている。

指導と評価の計画（3時間取り扱い ●本時 1/3）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
よく家族や地域のためによりよい生活を実現し	1	1	●自分の生活を見つめ、問題を見だし、学習課題を設定する。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
		課外	○家族とともに仮課題について話し合い、決定する。	【主】①学習シート
	2	1	○実践するための計画を立てる。	【思】②実践レポート
		課外	○家庭で実践する。 ○実践報告書を作る。	【思】③実践レポート 【主】②振り返りシート
	3	1	○実践報告会を開き、これからの生活に活かせることを考える。	【思】④学習シート 【主】③振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

今まで学習してきたことを生かして、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	12	1 本時の学習課題を見つける。 (1) 昨年行った実践を振り返る。 (2) 設定家族の一日の中から課題を見つける練習をする。	○今までどんなことを学習してきましたか。 ・ゆでる、炒める等の調理ができるようになった。 ○昨年の実践からの気づきや現在の様子からよりよくできそうなパワーアップポイントを考えよう。 ・SDGsの視点 ・身近なものを使って	○昨年の課題と実践のシートを振り返らせる。 ○設定家族の中で地域を取り扱い、地域への視点も広げられるようにする。	電子黒板  昨年のレポート  タブレット(キーノート) 設定家族電子黒板
		よりよい生活をするために、家族や地域に向けたパワーアップ大作戦を考えよう。			
展開	10	2 生活の営みに係る見方・考え方やSDGsの視点も考慮しながら、自分の家の課題を考え、友達とも話し合い、さらに改善する。	○自分の家庭について課題を考えてみましょう。 ・自分もこの設定家族と同じようなことがあった。	○課題となる観点は生活の営みに係る見方・考え方やSDGsを参考にさせる。 ○対象を明確にし、相手意識と目的意識を持てるようにする。	タブレット(メタモジ)
	15	3 友達の考えを聞き、課題を仮決定する。	○友達と相談してどのような改善策があるか考えてみましょう。 ・買うのではなく家の物を利用するとSDGsにつながるよ。 ・うちのみそ汁の野菜は炒めているから美味しいよ。 ○家族や地域のためにできる課題を設定しましょう。	◎【思】①日常生活の中から家族や地域の方に向けた課題を設定できているか。 ○導入で扱ったパワーアップポイントを参考にするように声掛けを行う。	
終末	8	4 次時の学習を知り、本時の学びを振り返る。	○家の人と相談して決定したら、計画を立てます。 ○本時の振り返りをしましょう。	◎【主】①家族・地域の一員として、生活をよりよくしようと、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。	タブレット(メタモジ)

## 第5学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 伊田 朱里

### 1 題材の構想 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（東京書籍）B（5）アイ

の児童の姿	一人一人の思いや願いのこもった布製品を製作することができ、製作を通して、布製品のよさや多様さに気付くとともに、生活を豊かにするための布製品を作って、生活をよりよくしようとしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全なミシンの使い方を理解し、正しく使うことができる。</li> <li>丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を見つめ直し、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考えることができる。</li> <li>実践を評価・改善し、自分の考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活をよりよくするための課題を見つけ、改善しようと主体的に取り組む。</li> <li>実践を振り返り、改善したりして、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。</li> </ul>
目標に向かうための手立て	<p>○研究の視点</p> <p><b>【視点1 課題設定の工夫】</b>                      題材導入時に「世界に一つだけのエプロンを作ろう」という題材を通してためあてを設定することで意欲を喚起するとともに、そのために必要な技能や準備・製作計画を自ら考えることができるようにする。</p> <p><b>【視点2 指導の工夫】</b>                      実物や見本、段階写真を提示し、見比べることで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとに考えた縫う順番や工夫について交流し、製作手順の根拠に気付かせることで、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。</p> <p><b>【視点3 振り返りの工夫】</b>                      生活を振り返り、生活に学びを生かすという教科の特質から、振り返りシート（メタモジ）を活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行い、自分の生活の変化や成長を実感できるようにする。また、製作の様子を画像で記録し、改善点を記入することで、次の製作に生かすようにする。</p>		
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期は、フェルトを使って手縫いで小物入れの製作をした。玉結び、玉どめ、ボタン付け、なみ縫い、かがり縫い、返し縫いを学習している。</li> <li>○ミシンを使ったことがあると答えた児童は3人。家にミシンがない児童は5割を超えている。ミシンに対して「危なそう」「怖い」というイメージを持っている児童が半数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期の手縫いの学習では、縫う順番や縫い方の工夫について問題を見だし、課題を設定した。製作見本を観察したり手順カードを並べ替えたりする活動を通して、身に付けた技能を生かした縫い方を検討し、製作計画を立て、製作することを経験している。</li> <li>○1学期の手縫いの学習を振り返り、「作るのが楽しい。」「大事に使おう。」「他にも作ってみたい。」と感じている児童が多い。その反面、「難しい。」「きれいに作れない。」「やり方が分からない。」と苦手意識を持っている児童が2人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに生活を豊かにするものを自分で作ったことのある児童は、2割である。そのうち、布を使って作ったことがある児童は、2人いる。</li> <li>○1学期の手縫いの学習後、家庭で小物入れなどを作りたいと製作計画を立て、夏休みに製作した児童は4割いる。</li> <li>○ミシンの授業では、エプロンの他にも「バックを作りたい」「ランチョンマットを作りたい」など学習を楽しみにしている児童が多い。</li> </ul>

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解できるとともに適切にできる。 ③ミシンなどの用具の安全な取り扱いについて理解できるとともに適切にできる。	①マイエプロンの製作計画やミシン縫いによる製作について問題を見だし、課題を設定している。 ②様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いたミシン縫いによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組む。 ②実践を振り返って改善したり、生活を工夫したりして、実践しようとしている。

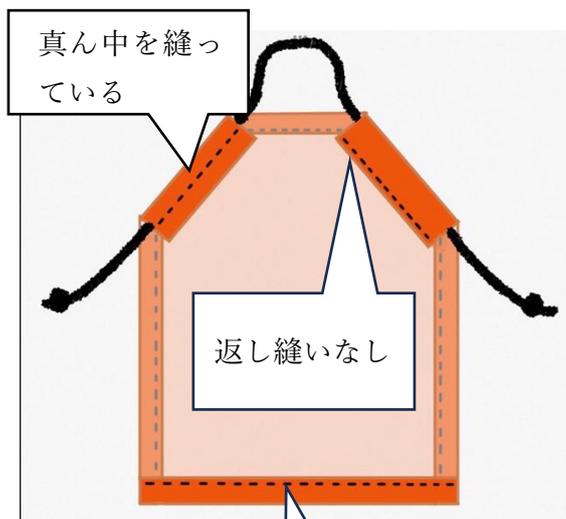
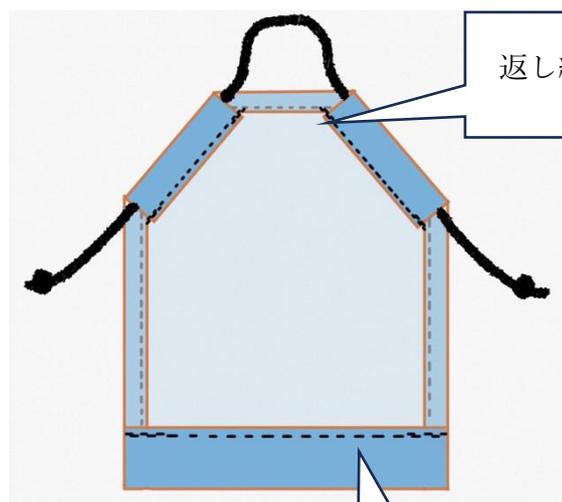
指導と評価の計画（12時間取り扱い ●本時 7/12）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
世界に 一っだけの エプロン を作ろう	1	1	○ミシン縫いと手縫いの違いを考えたり、身近なミシン縫いの布製品を観察したりして、ミシン縫いのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
	2	2	○手縫いの時と比べながらミシン縫いで必要な部分の名前を知る。安全なミシンの縫い方について知り、直線縫いをする。 「ミシン針」「はずみ車」「押さえ（レバー）」「コントローラー」「電源（スイッチ）」 ○「返し縫い」「角の曲がり方」の仕方を知り、縫う。 ○ミシンの糸通しの仕方が分かる。	【知】②③観察・作品 【主】①振り返りシート
	3	3		
	4	4		
	5	5	○エプロンにふさわしい布を選ぶ活動を通して、いろいろな布の違いや種類に気付く。 ○必要な布の大きさや布端の始末の必要性を理解する。	【知】①学習シート
	6	6		
3	7	●見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。	【知】①学習シート 【思】①学習シート	
8	8	○製作計画に沿って、製作する。 ①布にしるしをつける。 しつけをする。 ②直線縫いをする。 ③かざりやポケットをつける。 ④アイロンをかけ、ひもを通す。	【知】②③観察・作品 【思】②学習シート 【主】②振り返りシート	
9	9			
10	10			
11	11			
4	12	○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。	【思】②学習シート 【主】②振り返りシート	

【見本】

完成見本

比較見本



2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 本時のめあてを確認する。	○どうやってエプロンを作るのだろう。 ・手順を知りたい。	○前時までの活動を電子黒板に掲示することにより振り返ることができるようにする。	電子黒板
	『世界に一つだけのエプロン』のぬう順番と工夫を考えよう。				
展開	20	2 縫う順番を考える。 (1) グループで考える。  (2) 全体で共有する。	○エプロンを作るにはどこを縫えばよいか考えましょう。 ・周りを三つ折りにして縫う。 ○どんな順番で縫うとよいか考えましょう。 ・重なっているところを見ると縫う順番が分かる。 ・ひも通しの部分を後に縫うと、ひもが通る。	○紙のミニエプロンを準備することで、実際に縫い代部分をつなげながら考えることができるようにする。 ○見本を準備することで、詳しく観察し、縫う場所や順番を考えることができるようにする。	紙のミニエプロン 完成見本 電子黒板 タブレット (メタモジ)
	15	3 縫い方の工夫を考える。 (1) 丈夫に縫う工夫を考える。  (2) 裾の縫い方を考える。  (3) 見つけた工夫を確認する。	○□□な工夫を見つけましょう。 ・丈夫にするために、縫い始めと縫い終わりは、返し縫いがしてある。 ・丈夫にするために、ひも通しの部分の縫い始めと縫い終わりは、はみ出して縫ってある。 ・ひもが通せるように、ひも通しの部分は端を縫ってある。  ・長く使えるために、裾が大きく折り曲げてある。身長が伸びた時、調整できると思う。	○手縫いの時に見つけた工夫と関連付けて、縫う場所にも目をつけながら見つけることができるようにする。 ○題材導入時の子どもたちの思いから□□の言葉を当てはめる。 ○実際に着用している写真や標本を使い、裾のぬいしろの違い、長く使うためのよさに気付くことができるようにする。 ◎【知】①縫う順番や工夫について理解している。	比較見本 タブレット (メタモジ) 電子黒板
				○分かったことや工夫することをまとめましょう。	◎【思】①マイエプロンの製作計画について考えている。
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○どんなことを学びましたか。 ・縫う順番を間違えないようにしたい。 ・丈夫に使えるように返し縫いを忘れないようにしたい。 ・ひもが通せるように、端を縫うことを忘れないようにしたい。	○本時の学びを書くことにより製作に生かせるようにする。	タブレット (メタモジ)

## 第5学年1組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 松島 慧

### 1 題材の構想 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方 (東京書籍) C

題材の 終った 児童の 姿	「持続可能な社会の構築」などの視点から、消費者として、物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫しようとしている。		
	<b>〔知識及び技能〕</b>	<b>〔思考力、判断力、表現力等〕</b>	<b>〔学びに向かう力、人間性等〕</b>
<b>題材の目標</b>	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買い物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
<b>目標に向かうための 手立て</b>	○研究の視点 <b>【視点1 課題設定の工夫】</b> 今までの自分や家族の買い物を振り返り、失敗したと思う経験を出し合い、共有し合うことで、よりよい消費者になろうという題材のゴールを目指そうとする意欲を高めることができるようにする。 <b>【視点2 指導の工夫】</b> ロイロノート内のカラーテキスト活用・お金の使い方の疑似体験・具体的な買い物の場面想定によって、児童の意思決定や表現・集約ができるようにする。 <b>【視点3 振り返りの工夫】</b> 振り返りシート（メタモジ）を活用したり、児童の記入例を全体で紹介したりすることによって、児童の振り返り意欲を高める。		
<b>児童の実態</b>	○一人で牛乳を買う場面を想定した時に選ぶ基準として、銘柄（半数）、値段（3割）、消費・賞味期限（2割）が挙げられた。 ○2割の児童が返品を経験しており、その際にレシートが必要だと考えている。	○「気に入った筆箱があったら、買いますか？」の問いに、買わない（8割）、買って使用中のものを誰かに譲る（1割）、買って使用中のものが古くなるまで保管する（1割）だった。 ○お年玉を全額預貯金した児童が約1割、少し使って残りを預貯金した児童が6割、保護者に預けた児童が3割だった。	○一人買い物の経験を9割の児童がしている。（おやつ・おもちゃ・野菜などのおつかい） ○家の中の消耗品を使い切った時や使えなくなったと気づいた時に、家の人に伝えたり、買いに行ったりしたことがある児童が割だった。（牛乳、トイレトペーパー、蛍光灯）

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 買い物のしくみや支払いの方法について理解している。 ② 購入に必要な情報の収集・整理について理解し、適切にできる。	① 限りある物や金銭の使い方や消費者の役割について考えている。 ② さまざまな情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い物の仕方について考え工夫している。	① 家族の一員として、今までの買い物を振り返り、生活を改善しようとしている。 ② 上手な物の選び方、使い方の学習を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫し、実践しようとしている。



指導と評価の計画（6時間取り扱い ●本時3/6）

課題	次	時	主たる学習活動	評価内容・方法
目指せ 買い物名人!!	1	1	○今までの買い物を振り返り、失敗した経験を共有し、学習の見直しをもつ。 ○消費者の役割や必要な物を手に入れる方法について考える。	【主】① 観察・振り返りシート
	2	1	○買い物（おはじき）ゲームを通して、お金の大切さについて考える。	【思】① 観察・振り返りシート
		1	●買い物の場面を具体的に想起し、売買契約について学ぶ。	【知】① 観察・振り返りシート
		2	○買い物の方法、支払いの方法について学び、買い物をするとき、どのような情報を集め、整理し、どのように選ぶかを考える。	【知】②【思】② 観察・振り返りシート
	3	1	○消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買い物と環境や資源との関わりを知る。	【主】② 観察・振り返りシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

筆箱を買う場面などを具体的に想起しながら、売買契約について理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	4	1 本時の学習課題を見つける。	○お店で筆箱を購入。帰宅後、後悔しました。あなたなら、その筆箱をどうしますか？ ・返品する。	○買い物の具体的な場面を想起しやすいように、各場面の写真を黒板に掲示する。 ○消費者側の都合による返品はお店の厚意であって、本来すべきことではないと伝える。	写真
		なるべく返品しない買い物について考えよう。			
展開	13	2 売買契約について学ぶ。 (1) 筆箱の買い物場面について考える。	○どの場面までさかのぼって考えれば返品にならないのでしょうか？ ・お店を出る前なら、返すことができるのかな？ ・お金を払う前なら、大丈夫かな？	○児童一人一人の考えを把握するため、ロイロのカラーテキストを活用する。 (提出箱を無記名で投影) ○買い物の場面ごとの写真を使った説明をすることによって、「売買契約のタイミング」「買い手・売り手がしなければいけないこと」について理解できるようにする。	タブレット (ロイロノート)
	10	(2) 宅配ピザの電話注文について考える。	○花子さんが宅配ピザを電話で注文しました。電話を切った直後に、家族の嫌いな食材が入っていることに気づきました。変更できる？できない？	○企業側の話を聞くことによって、返品することは消費者として好ましくない行為であることを実感できるようにする。	動画 (企業の方の話)
	10	(3) インターネット売買について考える。	○インターネットでの買い物には、返品についての記述があります。どうして、お店の厚意である「返品」についての記載があると思いますか？企業の人の話を聞いてみましょう。	◎【知】①売買契約について理解している。	
終末	8	3 本時の学びを振り返る。	○今日の学習の中で大切な言葉は何ですか？その言葉を使って、まとめましょう。 ○振り返りをしましょう。 ・返品はお店の厚意なので、売買契約前によく考えて買い物ができるようになりたい。	○売買契約と返品との関係についての記述やこれからの買い物で気を付けることなどを全体で紹介することで、買い物をする時の心構えを共有する。	タブレット (メタモジ)

## VII 考察

### 1 児童および教員の変容

研究の経過を見るために、令和4年7月にアンケートをした5年生(293人)の学校で、令和5年7月に6年生(290人)への意識調査を行った。

「家庭科が生活の役に立つ教科だと思うか」(図18)という問いに対して、「とてもそう思う」と答えた子どもは減ったものの、全体的にみると肯定的にとらえている子どもは増えている。自由記述の理由を見てみると、将来の生活に役立つと感じている子どもが多い。また、今の生活にも役立っているという子どももいる。

「家庭科で学んだことを実際に家でやってみることはあるか」(図19)という項目では、家庭実践をするという子どもが5割ぐらいから7割近くまで増えている。内容としては、調理が多く、裁縫や洗濯、夏の過ごし方の工夫、整理整頓などを家で行っていた。学年が上がり、学習した内容も増えて、実践に結び付けやすくなったことも関係していると考えられる。

「家庭科を学んだことで家庭の生活が変わる(変わった)と感じることはあるか」(図20)では、「よくある」と答えた子どもは減ったものの、多少変わったと感じている子どもは増えている。

「今の家庭での生活を変えた方がいいと思うか」(図21)では、「よくある」と答えた子どもは減ったものの、変えた方がいいと思うことがある子どもは増えている。内容としては、家事の偏り、片づけ、時間の使い方、栄養などについて変えた方がいいと考えている。しかし、継続的に自分の生活を見つめ、問題を見だし、課題を設定する力を持

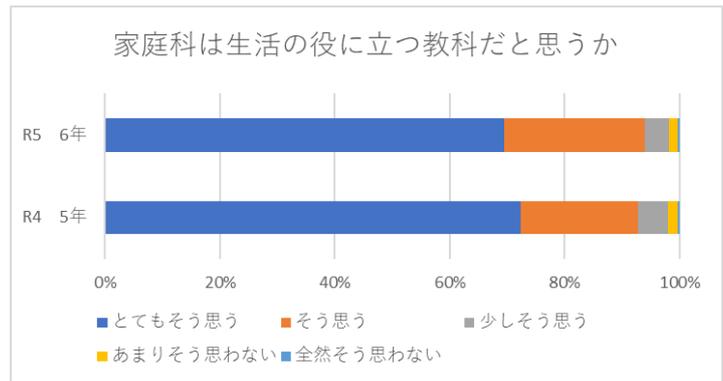


図 18 児童の変容 1

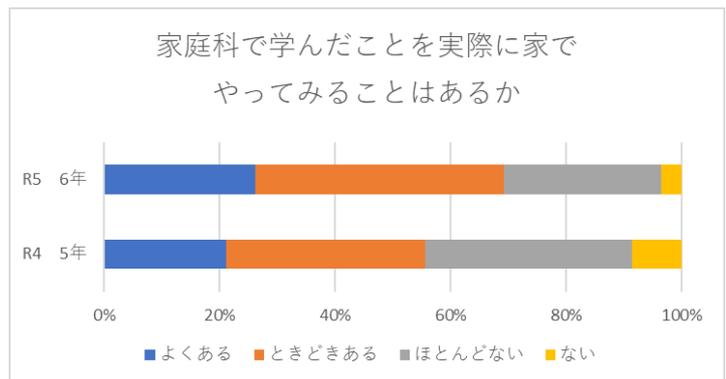


図 19 児童の変容 2

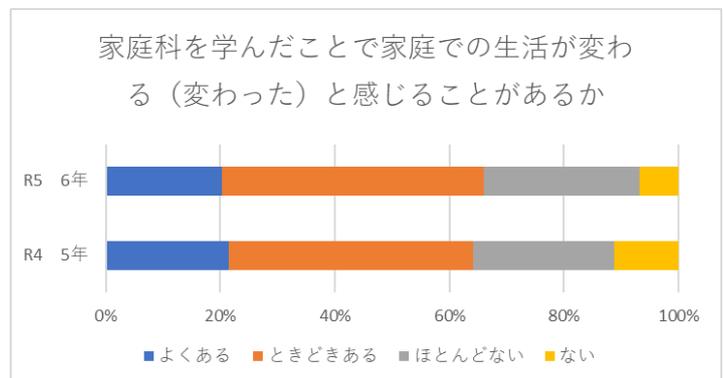


図 20 児童の変容 3

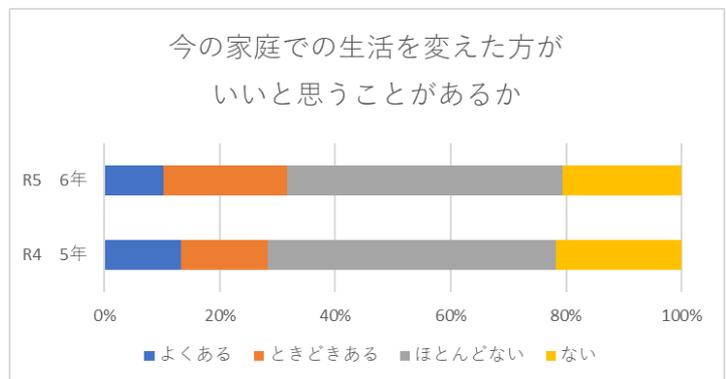


図 11 児童の変容 4

つ子どもは少ない。それは、家庭生活において子どもが主体ではない上に、今の生活が当たり前であり、問題を感じにくい状況にあることが推測される。子どもにアンケート結果を見せたところ「生活を変えたほうが良いと思ったところはもう変えたから。」「学習することで、できるようになったことが増えて生活を変えたから。」といった発言があった。問題を見だし、課題を解決する力が必ずしも伸び

ていないというわけではなく、生活が改善されてきている部分もあるのではないかと考える。

「SDGsという言葉の意味を知っているか」(図22)では、知っている子どもが増え、9割以上が理解していることがうかがえる。「生活の中で環境を考えて生活していることはあるか」(図23)でも、取り組んでいると答えた子どもが増えた。内容としては、ごみの処理や節電節水、買い物について取り組んでいた。家庭科に限らず、様々な授業の学習によってSDGsについての理解が深まり、行動へ結びついているのではないかと考えられる。

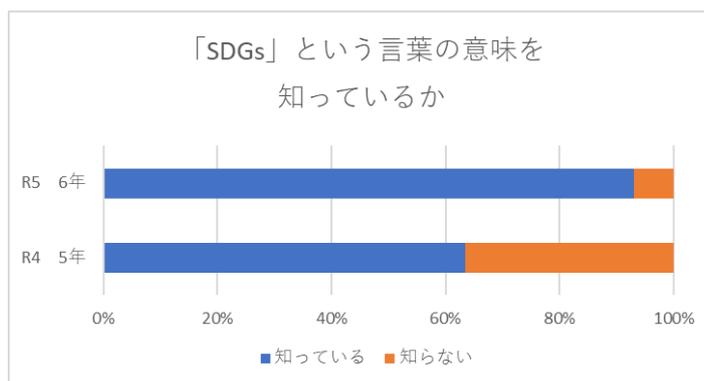


図 22 児童の変容 5

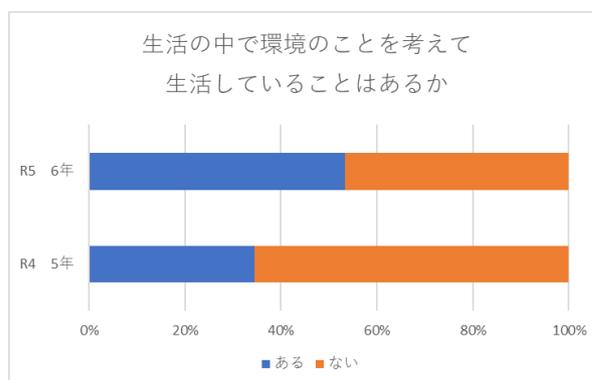


図 23 児童の変容 6

教員にも令和5年7月に実態調査を行った。(22人)全く同じ集団というわけではないものの、令和4年7月のアンケートと比較して、「実践的・体験的な活動」「問題解決的な学習」「言語活動を意識した授業」ともに、行ったと答えた教員が増えている。(図24, 25, 26)

自由記述で設定家族のスライドを活用した感想を聞いたところ、良かったところは「設定家族に共感して、自分たちのわからないことが明らかになっている。」「共通の課題を持つ上で有効だった。」「子どもたちを共通の土台にのせて授業に入ることができた。」「単元で身に付けるべきカや、解決すべき課題を子どもと共有しやすかった。」など、問題解決的な学習につながりやすかったことが推察される。課題としては、「時として太郎さん本人のみの方がよいことや、設定家族にどの程度の設定があることが題材のめあてに対して望ましいのかを考えることが必要だということ。」「設定家族の問題はわかっても、自分の生活と重ねられない子どももいる。」といったものが挙がり、設定家族の

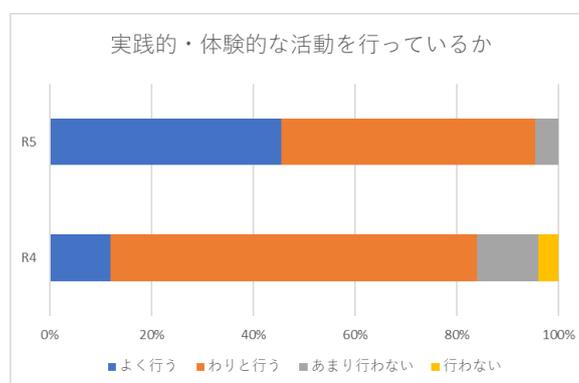


図 24 教員の変容 1

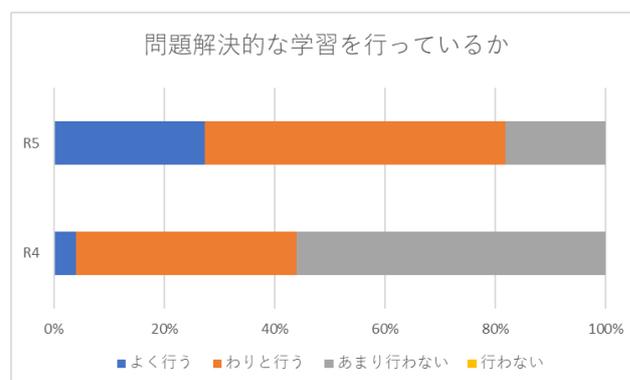


図 25 教員の変容 2

中で取り扱う事例の精選や改善も必要だということがうかがえる。

振り返りシートについての自由記述では、「毎時間の子ども達の成長過程が一枚のシートで一目で分かるのがよかった。また、コメントも書かずにチェックするといいいので、こちらの負担も少なく無理なく活用できている。」「①教師の評価のしやすさ。②子ども自身が、自分の成長を感じられる。どんなことを書いていけば良いか、だんだんと質が上がっていく。」「題材で1枚にまとめられ、蓄積していけるため、自分の学びや成長が実感できてよかった。」「ゴールを先に決めるので見通しを持って活動に取り組める。」というところは、良かったととらえられている。課題としては、「項目の中の『これからは』の内容について十分な書き方、次につながる言葉かけが足りなかった。」というものがあり、シートを用いた上で、振り返りの書かせ方や共有の仕方をしっかり考えて指導していく必要があることが分かる。

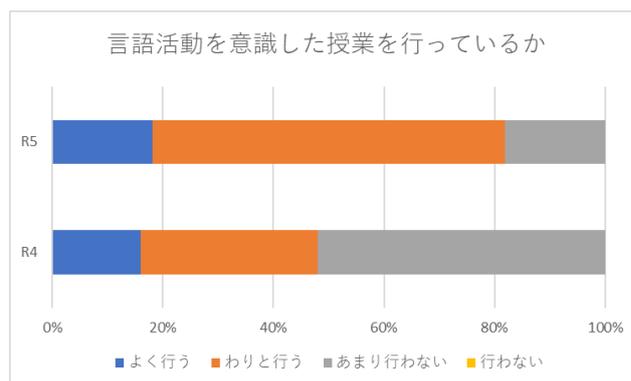


図 26 教員の変容 3

## 2 成果

- 題材の第1時に設定家族のスライドを用いることで、子どもたちは太郎さんにアドバイスをしながら、生活の中に隠された問題を共感的に見つけていくことができた。
- 題材の第1時に自分の課題や、題材の終わりに自分がどのような姿になりたいのかを考え、学習の見通しを持つことで、主体的に学習を進めていくことができた。
- より子どもたちの直面するような状況設定を行うと、子どもたちは自分事としてとらえ、自分の生活と結びつけながら考えて、それを相手に伝えようとする姿が見られた。
- 対話的な活動を意識的に取り入れることで、よりよい考えを作ろうとする姿が見られた。
- 段階見本や栄養バランスチェック表等を利用することで、試行錯誤が容易で、思考の深まりが見られた。
- SDGsや環境の意識づけを常に行っていくことで、子どもたちがSDGsに配慮した発言や考えを行う姿が見られた。
- 1枚の振り返りシートにしたことで、題材のスタートとゴールを見通せ、子ども自身も成長を自覚しやすい振り返りを行うことができた。また、教員からのコメントをチェック方式にしたことで、取り組みやすくなった。

## 3 課題

- 子どもによっては、設定家族のスライドから問題を考えたことを自分の生活に重ねることが難しい場面も見られたので、より子どもたちの生活に重ねやすいスライドの改良が必要である。
- 家庭に戻ったときに、問題を見いだす力がまだ十分に育ったとは言い難いので、さらに家庭とつなぐ工夫が必要である。
- 思考力・判断力・表現力を育むための状況設定、学びを深めるための対話的な活動、教材教具の工夫、SDGsや環境の意識づけをそれぞれで行っているが、情報を共有することでよりよい指導の工夫を作り上げていく必要がある。

- 振り返りカードの記述の向上を図るために、キーワードを提示したり、できるようになった過程や理由が書かれた振り返りを共有したりするなどの工夫を行う必要がある。
- 少しでも多くの教員に利用してもらうために、さらに情報発信を行ったり、教材を共有財産として貸し出しできるようにしたり、使ってみての感想をもとに作り替えていくようなシステムづくりが必要である。

《参考文献》

- 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 家庭編 文部科学省
- 1人1台端末を活用した授業づくり (小学校家庭科) 2022年6月 筒井恭子編著

令和5年度 熊本県小学校家庭科教育研究大会 熊本大会 運営組織図

大会期日:令和5年11月22日(水)  
大会会場:熊本市立川上小学

大会事務局	
実行委員長(市会長)	村上利美(吉松)
事務局長	古江宜子(泉ヶ丘)
	(県) 金子紀子(託麻原)
総務部長	古江宜子(泉ヶ丘)
研究部長	中村晴海(春竹)
	牛島めぐみ(若葉)
広報部長	大廣絃子(城東)

県会長	県会長 古家慎也(川上)
市会長	市会長 村上利美(吉松) 実行委員長
副会長	県副会長 川中 雅代(川口)
	堀川 誠治(春竹)
	市副会長 中嶋哲也(桜木東)
	松本至道(城山)
	山口佳代(楠幼稚園)

顧問・アドバイザー	
熊本大学教育学部家庭科	八幡彩子 教授
	宮瀬美津子 教授
	中迫由実 准教授
	増田仁 准教授
県立教育センター	高宮かおり 指導主事(全体会講評)
市教育センター	廣瀬文子 主任指導主事

運営委員会	
会長、副会長、各部長、各主担当◎	

実行委員会	
会長、副会長、各部長、各主担当◎、各役員、顧問等 (各校家庭科主任・・・拡大実行委員会のみ)	

ICT支援	
市教育センター	ICT支援員

各支部	
*会員数に応じた参加期待数を呼びかける。	

総務部(古江)				授業研究部(中村・牛島)					広報部(大廣)		
全体計画、大会運営、全体会運営、会場、会計、来賓対応等				授業づくり、指導案・資料作成、分科会(授業研究会)運営、授業記録					大会紀要作成、大会記録・写真、ICT関連		
運営	庶務	渉外	会計	領域	食生活	課題と実践	消費・環境	衣生活	大会紀要	記録・広報	ICT
全体計画、全体会運営 運営・実行委員会、各種発送	派遣依頼・礼状作成、 受付名簿、全体会進行	諸礼、会場設置、 駐車場、接待	予算、予算執行、決算		6年	6年	5年	5年	原稿依頼、紀要(デジタル 版)作成、HP掲載	全体記録・写真撮影、大 会まとめ作成	各会場ICT機器準備、 全体会配信
◎古江宜子(泉ヶ丘) 金子紀子(託麻原)	◎山口佳代(楠幼稚園) 三宮智恵(託麻原)	◎西田真由美(川上) 木下八枝子(大江) 長尾豊美(川上) 湯茶 森泰子(画図) 川上小職員・PTA	◎小山彰子(春竹) *市会計 西川瑞恵(清水) *県会計	担当者	◎清水太佳子(白山) 大廣絃子(城東)	◎牛島めぐみ(若葉) 古江宜子(泉ヶ丘)	◎金子紀子(託麻原) 三宮智恵(託麻原)	◎中村晴海(春竹) 寺澤まゆみ(託麻原) 西川瑞恵(清水)	◎大廣絃子(城東) 阿蘇品浩子(桜木) 寺澤まゆみ(託麻原)	◎宮崎紀子(力合西) 吉田由美(城西) 西川瑞恵(清水)	◎阿蘇品憲治(飽田南) 田中玲衣(託麻原) 松木美玲(託麻北) 三井優子(白山) 平井美羽(武蔵) 河端有紀(楡木) 坂本洋平(碩台) 川上小職員
		授業者	板倉富美江(川上) 長尾豊美(川上)	小園裕太郎(泉ヶ丘)	松島慧(託麻原)	伊田朱里(川上)					
		サポート	阿蘇品浩子(桜木) 木下八枝子(大江) 小山彰子(春竹) 吉田由美(城西)	阿蘇品憲治(飽田南) 湊純子(本荘) 三井優子(白山) 河端有紀(楡木)	荒尾諭美(田迎南) 吉田恵(城北) 田中玲衣(託麻原) 西田真由美(川上) 平井美羽(武蔵)	森泰子(画図) 宮崎紀子(力合西) 松木美玲(託麻北) 米村志保(春竹) 古江杏菜(富合) 坂本洋平(碩台)					
		助言者	増田仁(熊大准教授)	中迫由実(熊大准教授)	八幡彩子(熊大教授)	廣瀬文子(市センター 主任指導主事)					
担当校長	川中雅代(川口)	中嶋哲也(桜木東)	松本至道(城山)	堀川誠治(春竹)							
総務部総括 村上利美(吉松) 山口佳代(楠幼稚園)				授業研究部総括 川中雅代(川口小)・堀川誠治(春竹小)・中嶋哲也(桜木東)・松本至道(城山)					広報部総括 古家慎也(川上)		

あとがき

近年急激な科学の進歩によりグローバル化の進展、経験をしたことのない自然災害の甚大な被害、急激な少子高齢化といったさまざまな課題を抱え、予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちにとって、持続可能な社会の実現を目指し、豊かな暮らしを探究することは、まさに生きる力として不可欠なものであります。本研究会では、令和4年度と令和5年度の2年間、身近な家庭生活での問題に気づき、課題を設定して、自ら進んで解決しようとする態度の育成を目指し、研究を進めてまいりました。意欲的に学ぶことができる教材・教具の開発とともに、友だちとの対話をとおして、思考が深まるよう取り組んだことから、自分の暮らしをよりよくするために、環境面やSDGsといった多角的な視点から課題を解決しようとする姿が見られています。

しかしながら、教師が授業の中で、子どもの思考力・判断力・表現力を引き出すためには、教材のさらなる研究や指導の工夫において、これからも研究を深めていかななくてはなりません。また、学習の効果を高めるための題材配列も大事になってくるでしょう。研究によって積み上げてきた成果を活かし、課題を解決しながら、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てていくために今後も実践を重ね研究を継続してまいります。

今大会は、久しぶりの対面での開催となり、熊本県小学校家庭科教育研究会（熊本市大会）へご参加いただき、誠にありがとうございました。川上小学校を会場とし、研究主題を「自らの生活をよりよくしようと工夫する児童の育成～課題設定と振り返りの工夫を通して～」とし、4つの分科会で授業研究会を開催することができました。各分科会では、熊本大学大学院教育学研究科 八幡彩子 教授をはじめとする先生方にご助言をいただき、今後の研究へご示唆をいただきました。本日ご参加いただきました先生方のご協力のもと、熱心な協議ができましたこと、大変感謝いたします。誠にありがとうございました。

熊本市小学校家庭科教育研究会  
会長 村上 利美（吉松小学校）

令和5年度（2023年度） 研究同人

県会長	古家慎也	市会長	村上利美
県副会長	川中雅代 堀川誠治	市副会長	中嶋哲也 松本至道 山口佳代
大会実行委員長	村上利美		
大会事務局	事務局長・総務部長 古江宜子（市）	金子紀子（県）	
	研究部長 中村晴海 牛島めぐみ		
	広報部長 大廣紘子		
実行委員	阿蘇品憲治 伊田朱里 坂本洋平 寺澤まゆみ 湊 純子 三井優子 米村志保		
	阿蘇品浩子 小菌裕太郎 三宮智恵 長尾豊美 平井美羽 宮崎紀子 河端有紀		
	荒尾論美 小山彰子 清水太佳子 西川瑞恵 古江杏菜 森 泰子 吉田 恵		
	板倉富美江 木下八枝子 田中玲衣 西田真由美 松島 慧 吉田由美 松木美玲		
	川上小職員一同		
アドバイザー	宮瀬美津子 熊本大学大学院教授 八幡彩子 熊本大学大学院教授 中迫由実 熊本大学大学院准教授		
	増田 仁 熊本大学大学院准教授 高宮かおり 熊本県立教育センター指導主事		
	廣瀬文子 熊本市教育センター主任指導主事		

令和4年度（2022年度）

県会長	石塚 雅浩（R4定年退職）	市副会長	本田裕紀（R4定年退職）
県副会長	八谷邦子（元県会長 R4定年退職）	市副会長	廣瀬文子
実行委員	岩元優子 田畑浩二 深川佳織 福嶋慶彦 藤野佳美 水上茉優		
アドバイザー	栗田佳代 熊本市教育センター指導主事		

熊本市立川上小学校 会場会場図

